

【マインドマップのやり方（超簡易版）】

マインドマップは思考しながら書く／書きながら思考するためのスキルです。マインドマップの「コツ」として以下の項目を押さえておきます。マーケティング・コンサルタントの中谷健一氏（Twitter ID:@KN_doko_off）によると、

1. 思いつくままに連想して自由に書き出す
2. 言葉はできるだけ短く（できれば単語で）
3. 枝の太さや文字の大きさ・太さ、色を工夫して重要箇所がすぐわかるようにする
4. アイデアの固まりを囲んだり、絵を入れたり、図形情報を活用する
5. アイデアに詰まったら、マップ全体を見渡して考える

これがマインドマップを作成する「コツ」です。連想ゲームの要領で言葉（単語）やイメージをつぎつぎと書き出してゆくと、アイデア同士が連鎖反応を起こしてさらに新しいアイデアが生まれるわけです。それでは以下の手順で実際にやってみよう。

- 1) マインドマップのスタート＝中心テーマを書く
 - ▶ 紙の真ん中に中心テーマを書く
 - ▶ 中心テーマは具体的な／わかりやすい言葉にする
 - ▶ 中心テーマを枠線で囲み、目立たせる
- 2) 最初の枝を伸ばす＝基本アイデアの書き出し
 - ▶ 中心テーマの周りに基本アイデアを書く
 - ▶ 中心テーマの枠線から基本アイデアに向かって太い枝でつなぐ
 - ▶ 太い枝は文字の色と別の色にする
- 3) 枝を広げる＝関係するトピック（話題）を展開
 - ▶ 基本アイデアから枝を伸ばして関連するトピック（話題）を書く
 - ▶ 並列関係にあるのか直列関係にあるのかに注意
 - ▶ 重要なトピックは目立つように飾り付ける
- 4) 関係するテーマや「かたまり」をわかりやすく見せる
 - ▶ 関連するテーマや「かたまり」を区別するために囲み・矢印・イラストを書く
 - ▶ 「どこに何の話題があるのか」がわかればOK
- 5) マップ全体を見ながらトピックを書き足す
 - ▶ 一通り書いたら全体を見ながらチェック
 - ▶ 補足や追加、関連付けができないか考えてみる
 - ▶ さらに思いついたトピックや関連付けをどんどん書き足してゆく

【三角ロジックを組み立てる】

ある事柄について自分の主張を説得的に説明する（論証する）ためには必ずデータを用意し、そのデータと主張を結び付けなくてはなりません。これをロジックと呼びます。

このロジックの組み立て方のひとつとして有名なのがS.トゥルーミンの三角ロジックと呼ばれるものです。

（参考：早稲田大学向後研究室教材サイト <http://kogolearn.wordpress.com/studyskill/chap4/sec2/>）

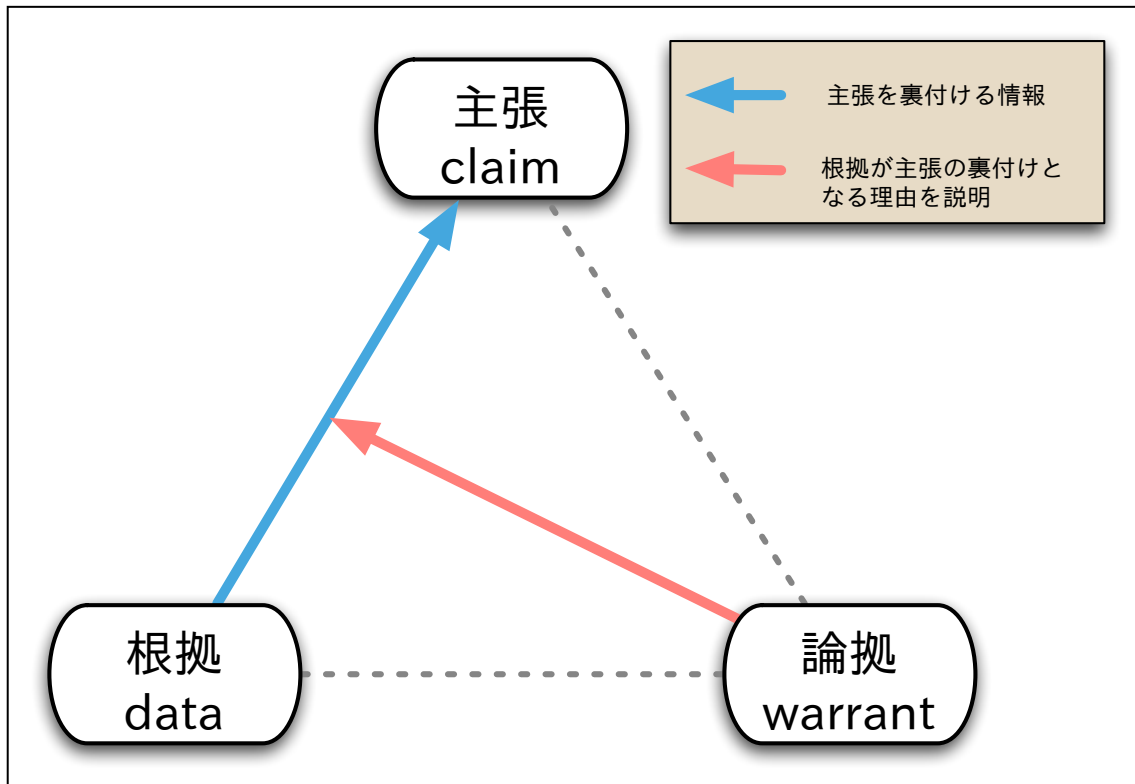


図 トゥルーミンの三角ロジック

主張 claim

よく用いられる型は2つ

1. ～～は～～である。 ---> 事実であることを主張する
2. ～～は～～べきである。 ---> 方針を提案する

根拠 data

なぜその主張 claim が成立するのか（主張できるのか），その「裏付け」となる情報を示す。ただし「裏付け」が正しい（正当性がある）ことを示さなくてはならない。
---> 外部から主張の裏付けとなる情報を引用する。

論拠 warrant

示された根拠 data から、なぜその主張 claim が説明できるのか，その理由を説明する（主張と根拠の関係を説明する）。